Pre－pre　２月の生活表

保育日数 19 日

2024 年２月
聖マリア幼稚園
Pre-pre クラス

年主題　ともにつむぎだす　～希望の中で～
月主題　**またあした**
月のねがい
- 自分の言葉で神さまとお話しをする
- 友達の思いに気付いて楽しく遊べるように考える
- 自然の不思議さや面白さに気付き、楽しむ

３学期が始まって３週間が過ぎました。

たった２～３週間子どもたちと会っていなかっただけなのに、冬休み明け久しぶりに出会った子どもたちはみんなちょっぴりお兄さんお姉さんになっていてびっくりしました。

先日のクラスだよりにも書かせて頂きましたが、子どもたちひとりひとり各々に泣いてお母さんと離れない「いやいや～」のわがままがすごい!！おもちゃの取り合い等でお友だちをたたいたりおもちゃを取って困っている。ごはんを（自分で）食べない等々…色々なことがありますね。

けれども、子どもたちは立ち止まっていません!!　毎日確実に成長していますよ、ちゃんと周りを見ています。周りを見て真似ることができる。同じようにやってみようとする…とても大切なことです。この気付きこそ私たちが生きていく中で、必要とされる力の１つではないかと思っています。「個」を大切に　「自由に」…それももちろん大切なことではあると思います。

けれども周りを見てルールがあることを学び自分以外の人やものとかかわって生きていく力を身につけていくことも同じように大切なことではないでしょうか…。

プレプレクラスも毎日のお祈りを通して「病気でお休みのお友だちをお守りください」「お友だちにいじわるをしてごめんなさい」…　自分以外の人を思いやる心が芽生えてきています。自然とお友だちの名前がお話の中に出てくるようになってきました。泣いているお友だち、おこっているお友だち、困っているお友だちを見て、助けてあげようとする子どもたちの姿は小さくても他人の思いに気付いているのだと嬉しく思って見ています。

このメンバーで過ごすのもあと２か月です。ご縁があって入会して下さった皆さまが、様々な関わりを通して成長して頂けますように…

今月もよろしくお願い致します

≪チャプレンコーナー≫

年聖句：キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。
（エフェソの信徒への手紙２：１７）

月聖句： **喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。**
（ローマ信徒への手紙 12:15）

能登半島地震で被害を受けた方々が、一日も早く穏やかな日常を取り戻されることを、心からお祈りします。

地震発生から１か月が経った今でも、上下水道をはじめ、日常生活の基盤が回復していません。どれほど苦しい生活をされているのかと思います。

先日、能登半島の入り口辺りにあります、社会福祉施設を訪問しました。同じキリスト教系の施設で、大阪の同様の施設代表の方と一緒に、お見舞いに行きました。その地域は幸い被害が少なく、電気、水道もほぼ不自由なく使うことができます。ただ、そこより北上すると、すぐに断水している地域に入るそうです。能登半島の中程に、同様の施設があり、そちらは本当に大変で、職員の方々は、ご自身が被災されている中で、利用者の方々のために日々出勤されています。ただ、仕事に励みながらも心の中は「茫然としている」というのが、正直なところだそうです。

地域の様々な写真を見せていただきました。報道で目にするとおりの、甚大な被害です。復旧までに長い時間と多大な労力が必要になることでしょう。

「同情」という言葉があります。英語ではコンパッションと言います。これは「コン：共に」と「パッション：苦しみ」を合わせた言葉で、「共に苦しむ」という意味になります。苦しんでいる人と共に苦しみ、共に新しい道を探っていくこと、それが「同情」の意味です。

「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」これは正に、「同情する人になりなさい」という教えです。簡単な教えではありません。けれども「難しい」「無理だ」と諦めてしまうのではなく、粘り強く、自分なりに、やり方を考えていきたいと思います。

《生活指導》

寒さに負けない強い身体を作りましょう。

- 底冷えの京都。寒さに負けない様に健康管理をしつつ、戸外での風にもしっかり触れて、体を鍛え、抵抗力も養いましょう。
- 帰宅後の手洗い、うがいを忘れずに習慣づけましょう。

子どもたちの成長に目をとめてみましょう。

- お友だちとの関わり合いを通して、子どもたちの成長に気づいてみましょう。
- 短い３学期です。お友だちと楽しく過ごし、次年度への認識を少しずつ培ってみましょう。

冬から初春を迎える自然の移り変わりに目を留めてみましょう。

- 小さな春を見つけてみませんか。幼稚園の登降園で親子で気付いてみましょう。